

東日本大震災から学んだこと (羽藤英二)

1. 域資源と自然性

- 防潮堤と三陸道の「間」
- インフィル型・新都市型・自然するまち
- 3年目迄に28.7%再建 (うち市外287世帯)



▲2011年土木学会現地調査④

2. トータルの都市像と事業マネジメント

- 被災を受けた人の町と受けていない人の町
- 複数地権者のマッチング型復興計画



▲土木編8 復興概要編(8学会連携事業)

3. 復興計画と人材育成

- 時間の計画 COVID-19と基本再生産数
- オフバジェットとアーカイブと復興教育



▲事前復興の現場展開 (四国高知地域)

復興の現場で感じた

この国の課題

平野勝也

復興における課題

- 500年に一度の極めてまれな事象
- vs 現に体験した津波
- 海岸堤防 (L1防壁) とまちづくり (L2安全性) の距離
- 中央防災会議の方針で守られた場所が「災害危険区域」

この国 (特に土木) の課題

- ・ 分散から集中へ
- ・ 単目的から共鳴のデザインへ (ガバナンス)
- ・ 高台移転と防潮堤
- ・ まちづくりのための街路、公園・広場、河川、建築etc
- ・ 量から質へ (手抜き設計が利益最大)



復興事業における自身の反省点

復興とは? (理想と現実のギャップ)

求められるスピード / 難しい被災住民との対話
コミュニティと個人 / 行政依存と行政の限界

計画と事業の関係

計画実現のための事業か、事業実現のための計画か
権利変換、嵩上げのための区画整理?
人口減少を前提としつつ拡大

復興計画は総合的計画にならない

基盤先行 = 基盤の遅れで全て変わる、時間変化が大きい
基盤無き生業・生活再建はあるのか?
被災地域と非被災地域

物理的距離条件による不利

同時多発的工事、作業効率性による遅れ、価格高騰

何が出来たのか?

これからのまちづくりの足掛かり
商業者支援
全体コーディネート⇔細部への配慮不足

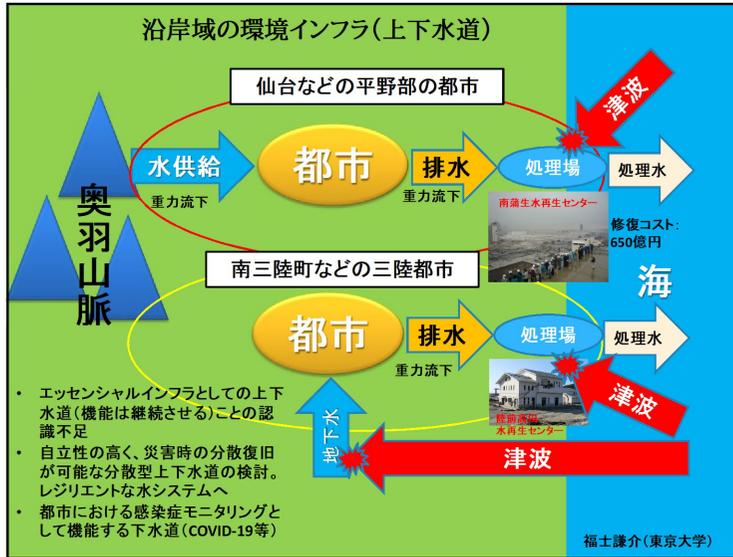
三宅諭 (岩手大)

2020.07.04 復興リレーシンポ(仙台)

「復興事業」に関して

姥浦道生(東北大学)

- ・ 「計画」と「事業」
 - 「計画」: 生活 / 生業 / 安全の空間的均衡
 - 「計画」の実現手段としての「事業」
 - ⇔「事業」の組み合わせによる「計画」
 - 「地区」の(個別的)論理 vs 「事業」の(画一的)論理
 - 「地区」の意思決定(公定化)プロセスの明確化
- ・ 事業の計画運用(等)に関する情報共有・議論の場
 - 復興関連事業の特殊性
 - “立場”を越えてフラットな多方向の意見交換の場の必要性
 - “本音ベース”の議論の場
 - 各自治体の計画・運用の相対化



東日本大震災第二次総合調査団報告：10年後の成果と課題
2020年7月4日 中央大学教授、東京大学名誉教授 石川幹子

1. 安全・生活(居住)・生業の再建
多重防御・コンパクトシティ・農業基盤整備の導入。
2. 「夢を育む計画」と「コミュニティ重視の合意形成」
「いわぬま・モデル」による迅速な社会実装の実現
3. 点にとどまらない、連携広域地域の実現
いまだに、困難。ネットワーク型社会資本の軽視。
4. 科学技術環境(IT、シミュレーション、GIS)の活用
津波シミュレーションの功罪(被災者の実感との乖離)
5. 被災地の空間構造の検討(防災施設・避難計画)
海岸林の再生: 多様な方法論の乱立、立ち上がってきた森が回答
6. 復興の「見える化」とスケジュールの明瞭化
迅速な復興(3年以内)を自治体が明言。信頼関係の成立。
7. 地域の記憶の継承と風景の調和した質の高い公共空間・防災施設
東北地方の伝統的風景(居久根)の再生。
課題: 復興事業では認められず。自力再生。

土木は文化。いわぬま・モデル

主役はコミュニティ、生活の復興を支えるグリーンインフラ

Earthquakes - Impact, Community Vulnerability and Resilience, The methodology of community-based resilient reconstruction DOI: 10.5772/intechopen.85790.

宮城県岩沼市 6集落300世帯 防災集団移転

1. レジリエンス: 回復力のある暮らしの場とは? 安全・安心、そして幸福
 グランドデザイン (2011年4-8月) → 被災者が描く夢 WSの継続支援 (2011年11月) → 事業化のプロセスと合意形成(行政と協働) (2012年6月~) → 新しいコミュニティのまちづくり開始 (2014年1月~)
2. 実践した方法: コモンズ(集落の協働の場)を創る。
居久根(いぐね)、公園、貞山緑道(具体的な眼に見える復興)
3. 土木は文化: 時を超えるインフラを創りうるか。
PRIDE OF PLACE: 次世代の土木へ

GIとは? 自然環境を生かした社会的共通資本

貞山運河 628本残存 447本伐採 智慧と志が必要